HASHIMOTO SOGYO COMMUNICATION
team hat Magazine
hat 橋本総業ホールディングス
2024 VOL.11

全国小学生テニス大会でイベントを実施！

第１部に参加した30名のジュニアたちとプロ

第２部には 29 名のジュニアが参加した

小学生のナンバー１を決める「第 42 回第一生命全国小学生テニス選手権大会」が８月７日から 11 日にわたり、第一生命相互園テニスコートで開催された。この大会の歴代の優勝者には錦織圭や西岡良仁ら日本を代表する選手たちが名前を連ねている。将来プロを目指すジュニアたちにとっては、自分のテニスキャリアのプラスにしたい大会である。この舞台に地区予選を勝ち抜いた男女合わせて 128 名の選手たちが集結した。

今まではコンソレーションマッチを行うことで、負けた選手も試合経験を積める機会にしていたが、近年の猛暑を考慮し、実行を断念。その代わりに、プロを目指すジュニアたちに、実際にプロと打ち合えるチャンスを与えるためのイベントを開催することとなった。

イベントは８月８日の大会２日目に行われ、第１部に 30 名、第２部に 29 名が参加。チーム HAT からは吉田友佳さん、森崎可南子、小関みちか、井上雷都、井上明里、小堀桃子、小林ほの香、北原結乃の８名のプロが参加し、ジュニアたちの挑戦を受けて立った。

ボレー対ストロークや、プロのサービスをリターンしたりと、各１時間半という時間ながら充実した内容で、ジュニアたちは満喫した様子。第１部に参加したジュニアが、続けて第２部にも参加したいと言うほどだった。この年代でプロのボールを体験できたことは、大きく成長できる切っ掛けになることだろう。

EVENT

全国小学生テニスイベントの様子

イベントに参加したチーム HAT メンバー。左から井上雷都、小堀桃子、小関みちか、北原結乃、井上明里、森崎可南子、小林ほの香、吉田友佳さん

選手一人一人のレベルが高くてびっくりしました。テニス界の将来が楽しみです。
by小堀桃子

挨拶とウォームアップからスタート！

１面に２名のプロが入りジュニアたちと打ち合った

全国から集まったたくさんのジュニア選手とテニスをすることができてとても楽しかったです。私もジュニア選手から刺激をもらい、良い時間を過ごせました。
by 小関みちか

ジュニアたちはとても満喫したようで、第１部と２部、両方参加する選手も多くいた

ジュニアたちが本気で勝負を挑んでくる姿を見て、逆にこちらが良い刺激を受けました。今後のテニス人生の中で、良いきっかけになれたらうれしいです。
by 井上明里

プロのサーブをリターンしたり、チャレンジマッチがあったりと、プロに挑戦できる機会もあった

参加してくれたみんなの笑顔に私も頑張ろうと思えました!
by 森崎可南子

参加ジュニアのサービス練習を見て、アドバイスをする時間も設けられた

今回プロ転向後初のイベント参加ということでとても緊張していましたが、選手たちが元気にプレーしているのを見て私も刺激を貰いました!　これからも色んな人たちにテニスの楽しさを伝えていきたいと思います!
by北原結乃

四大大会の全仏オープンと同じ赤土のコートでプレーできるのは貴重な経験

全小は初めて出た全国大会だったので、こうやってプロになってイベントに参加できて、懐かしい記憶もありつつ、選手の皆さんと楽しいイベントをやれたことが自分の成長も感じることができました。選手の皆さんありがとうございました!
by小林ほの香

昨年よりも気温が低かったこともあり、熱中症など体調不良になる選手もなく、元気にイベントを終えた

柴原瑛菜が予選を突破！ グランドスラム本戦初出場

今年最後のグランドスラム「全米オープン」が8月26日に開幕した。グランドスラムはテニス選手が目指す舞台で、シングルス世界ランキングが218位の柴原瑛菜は、それより前に行われる予選に初めて出場することができた。

予選1回戦で173位のK·ザワツカ（ウクライナ）に、2回戦では192位のF·ジョーンズ（イギリス）に勝利すると、予選決勝では149位のA·ハルトノ（オランダ）に1セットダウンから逆転勝利。グランドスラム予選初挑戦にして、本戦出場を果たした。予選を3回勝つことは簡単ではなく、なかなか予選を突破できない選手がいる。そんな中、1度目の挑戦で自分よりもランキングが上の3選手に勝って本戦の切符を手に入れるとは、柴原の実力が上がってきたことの証明だろう。

本戦1回戦の相手は93位のD·サビル（オーストラリア）。キャリアハイは20位のベテランを相手に、大事なポイントで積極的に攻めて6-3、4-6、7-6(6)の大接戦の末に勝利を挙げた。2回戦では世界1位のI·シフィオンテク（ポーランド）に敗れたものの貴重な経験をすることができた。

ダブルスの実績がある柴原が、とうとうシングルスでもグランドスラムの舞台に立った

柴原 瑛菜
Ena Shibahara

Grand Slams
SINGLES
2回戦

奥脇 莉音
Rinon Okuwaki

ITF W35
DOUBLES
優勝

ITF W35
ポーランド·フィドゴシュチュ
8月12日〜8月18日
ダブルス優勝

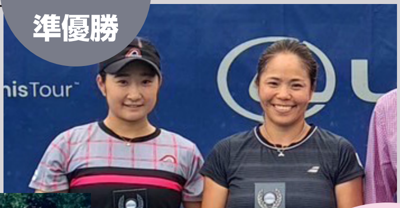
瀬間 詠里花
Erika Sema

ITF W35
DOUBLES
優勝

ITF W35
ドイツ·エルヴィッテ
8月12日〜8月18日
ダブルス優勝

大前 綾希子
Akiko Omae

ITF W35
DOUBLES
準優勝



ITF W35
イギリス·ローハンプトン
8月5日〜8月11日
ダブルス準優勝

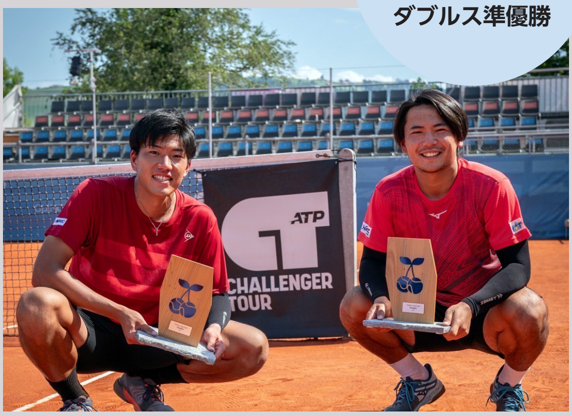
ITF W35
DOUBLES
準優勝

ITF W35
イギリス·オールダーショット
8月12日〜8月18日
ダブルス準優勝

渡邉 聖太
Seita Watanabe

ATP CH125
DOUBLES
準優勝

ATP CH125
スイス·ツーク
7月22日〜7月28日
ダブルス準優勝



働く長距離ランナー

TAKUMIのコラム

橋本総業の秋田支店で販売２課･営業として働きながら、陸上競技の長距離･駅伝選手としても活動する尾形拓海が、駅伝の魅力を紹介します！

LONG DISTANCE RUNNING

チームが一枚岩になって勝利を目指す駅伝

４月１日より入社いたしました尾形拓海と申します。現在は秋田支店で販売２課・営業として働きながら、陸上競技の長距離・駅伝選手として競技に取り組んでおります。仕事面でも競技面でも成長するための努力を怠らずに励んでまいりますので、応援よろしくお願いいたします。

競技活動ですが、地元のクラブチームと東北地区でトップレベルの社会人ランナーで構成された強化育成チームに所属しています。仕事と両立しながら競技力を高めていき、秋田や東北の長距離界を牽引できる強いランナーになることが目標です。練習は週６日行っています。平日は自宅近くの道路で早朝か退勤後に１時間程度走っています。休日は練習会に参加したり、大会に出場したりしています。

さて、駅伝といえば、お正月の箱根駅伝を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。駅伝の最大の特徴は、襷を用いる点です。襷をかけて中継点まで走り、次の区間の選手に１秒でも速く襷を繋いで、ゴールを目指します。駅伝は区間によって距離だけでなく、起伏の有無や気温などの違いがあるため勝つのは簡単ではありません。そのため､区間配置が重要になってきます。上りや下りが得意な選手もいれば、駆け引きが得意な選手もいます。選手１人１人の個性を生かし、チームが一枚岩になって勝利を目指すところに駅伝の魅力があると感じています。駅伝本番までに厳しい練習や体調管理など苦労する部分が多いぶん、達成感をチームで分かち合える楽しさがあります。

最近では、区間距離が短いミニ駅伝（リレーマラソン大会）も普及しており、幅広い年齢層に人気があります。誰でも気楽に参加できるので、ご家族や友人と一緒に駅伝の楽しさをぜひ感じてほしいです。

駅伝の特徴は襷。次の区間の選手に１秒でも速く襷を繋いでいく

PROFILE

尾形 拓海

Takumi Ogata

2001年4月10日生まれ。秋田県出身。中学校から競技を始め、現在競技歴11年目。武蔵野学院大学卒、１年時から４年連続箱根駅伝予選会に出走。秋田県代表チームとして2023年第63回奥羽横断駅伝に出走し、１日目／１区区間賞、２日目／３区２位、チーム総合２位。2024年第77回十和田八幡平駅伝に出走

TOPICS

ビーチバレー

BEACH VOLLEYBALL

櫻井／松山組が高萩大会に出場

櫻井いづみと松山紘子が組んで、８月３日、４日に行われたサテライト高萩大会に出場した。１回戦で第２シードと対戦し、勝利とはならなかったが、チームHATの男子テニスチームのトレーナーである宮田徹氏が帯同し、有意義な大会となったようだ。

櫻井は「前週での怪我があり不安がありましたが宮田さんに帯同いただき不安なく試合に臨めました。またベテランの松山選手と出場し、今回たくさん収穫がありました。秋にかけて試合が続くので改善点は修正し、結果に繋げたいと思います」。松山は「宮田さんにも帯同頂き良い環境で臨むことができました。次に繋げてまたチームハットで大会に挑みたいと思います」と、次の大会に目を向けている。

櫻井いづみ、松山紘子と、帯同した宮田トレーナー

発行：橋本総業ホールディングス株式会社　編集：Tennis.jp　デザイン：鷲見善弘（こうぼく堂）
●本誌掲載の記事、写真、など全ての無断掲載、複写を禁じます。